

2019年度福岡県立大学公開講座Ⅲ 附属研究所生涯福祉研究センター
実施日 2019年12月3日(火曜日) 13時30分 ~ 15時30分
実施場所 附属研究所1階大セミナー室

テーマ「筑豊の盆行事—先祖供養と盆口説き」

講師1 長谷川清之氏(福智町教育委員会 文化財担当)

講師2 中藤広美(生涯福祉研究センター助教)

本講座開催の目的

田川地域に残る口説きの文化と歴史を盆行事との関係で学び、参加者の体験を交流する。

本講座の概要報告

① 体験の語り 中藤広美(生涯福祉研究センター助教)

現在自分が住んでいる、福智町上野地域では、ほそ細とではあるが、盆口説きが現在も残り、初盆のお宅を一軒ずつ回っている。勢いのある若手が少なくなり、盆踊りの中心になれる人たちが60代~70代になってきた。5年ほど前に、村内全体での合同慰霊祭は廃止になったが、盆口説きで初盆家を回るのは続けたいという声が多く、なんとか継続している。

初盆の家では、新仏を迎えるために祭壇を組み、親戚縁者からいただいた生花などの供物や提灯とうろうなどを賑やかに飾り付け、昼間は近所、親戚縁者がお参りに来てくれたり、お寺さんに、供養のお経をあげてもらうなど、大忙しに過ごす。そして、夜になると、村内の人々が昼間のお参りとは別に盆踊り供養にきてくれる。初盆の家では、縁側に位牌と遺影を持ってきて、その前で踊ってもらうのである。

一方、私は、子どもの頃、田川市弓削田に住んでいた。盆踊りは一家総出で行っていた。父や叔父たちが太鼓をたたき、口説きをおこない、踊り手は、祖母という揃った一家だった。浴衣は、祖母宅近所のばあちゃんが作ってくれた。実の祖母は、孫が多いし、自分が踊りに行くことで精いっぱいであったのである。遠くから太鼓の音が聞こえてくると、そわそわして近所のばあちゃんに「早く縫い上げてくれ」とせがんだこと、そして、そのばあちゃんが、「盆踊りは逃げやせん」と、ほほえみながら浴衣を縫ってくれていたことが、なつかしく思い出される。青年団が中心となり初盆の家を一軒一軒周り、小学生だった私たち子どもは、どこが初盆かわからなくても、ぞろぞろ移動する大人について行った。家々をまわると、最後に、ごほうびのお菓子がいただけた。これは、最高の楽しみだったのだ。当時は、サンタさんのプレゼント袋のように沢山のおやつをもらっていた。そして、「初盆供養 ○○家」と書かれたうちわが配られていた。子どもの頃は、それがじゃまっけだったが、今思い出す

と、とても美しいうちわだったと思う。昔ながらの竹の骨組みのうちわで日本美人などが描かれていた。いつからか、その骨組みがプラスチックに変わっていた。そうこうしつつ、自分も成長と共に、盆踊りを楽しむことを忘れていた。

高校生の頃、当時住んでいた実家（栄町）で、近所に住む父の友人のお母さんが亡くなられた。そのころ、栄町では、もう盆踊りは、やられてなかった。しかし、私の父が「初盆供養をしてやろうやんか」といい出して、栄町公民館に眠っていた太鼓を持ち出し、急遽、その方の家で盆踊りをしたことがあった。すると、近所のあちこちから太鼓の音を耳にした人たちが集まってきて、皆さん踊り始められたのには驚いた。栄町では、盆踊り供養をしなくなって久しいと聞いていたし、私がそこに住みすでに4～5年たっていたが、一度も盆踊りをしたことがなかった。その翌年、町内の青年会が太鼓の叩き方口説きをどこで学べばいいのかを相談に来た。栄町地区で太鼓と口説き、初盆の家を一軒一軒回る盆踊り供養が復活した。その時のことが「田川市栄町（実家）15～6年（1963年頃）から途絶えていた盆踊りが1979年頃に復活」として、新聞に以下の様に取り上げられた。

…略）田川市栄町では青年会を中心に（団塊の世代の方々）老若男女約百人が、この1年に亡くなった人の霊を迎えるため、町内の初盆の家七軒を、田川市独特の盆踊り、盆口説きを踊って回りました。この行事は15～6年途絶えていましたが、青年会の人たちがお年寄りに口説きや太鼓の打ち方を教わりに行き、4年前に復活しました。口説きとは（後略）（藤間勘沙登特派員）（読売新聞筑豊版1983年8月）

以下は、私が成人して関東に遊びに行き、関東出身の友人と交わした盆行事に対する会話である。

私 「今年は祖母の初盆だから、お盆がとっても楽しみなんです。」

友人「え！??? おばあさんの初盆でしょ？おばあさん、亡くなったんでしょ？」

私 「はい。だから今年は初盆なんですよ。」

友人「どうしてそんなに嬉しそうにいうの？悲しくないの？」

私 「え？初盆はうれしいですよ～。新仏になった祖母が初めてお盆に里帰りしてくんですよ。それをみんなで歌って踊って盆踊りをして大騒ぎで出迎えるのもん。うれしに決まってるじゃないですか。ワクワクします。」

友人「は～・・・ そういった文化なんですね。うちの方ではそんなふうにお盆を過ぎさないから、喜んでる理由がわからなかったです。なるほどお。」

この時私は、「へえー。よそのお盆は違うんだ。伝統行事の持ち方が違うと、初盆の受け止め方、気持ちの持ちようまでも地域によってこんなに違うんだ。」と驚いたことを覚えている。ここにいる熊本出身の二見先生も、この地域の盆おどり供養に独自性を感じたといっ

ている。一方で、川村さんは、香春町に住んでいるものの、私が感じていたようなワクワク感が今一つピンと来ないとも言っている。自分が当たり前のように思っていた体験を他者に語ることによって初めて人と異なることに気づくということが面白いと思う。



お盆の体験を語る

中藤広美(福岡県立大学 助教) 提供



1963年頃から途絶えていた盆踊りが
1979年頃に復活。
……略……田川市栄町では青年
会を中心に(団塊の世代の方々)老若
男女約百人が、この1年に亡くなった人
の霊を迎えるため、町内の初盆の家
七軒を、田川市独特の盆踊り、盆口説
きを踊って回りました。この行事は15
~6年途絶えていましたが、青年会の人
たちがお年寄りに口説きや太鼓の
打ち方を教わりに行き、4年前に復活し
ました。口説きとは……略……

(藤間勘沙登特派員)読売新聞筑豊版
1983年8月より抜粋

(読売新聞筑豊版1983年8月)

② 講和 筑豊の盆行事「先祖供養と盆口説」

長谷川清之氏（福智町教育委員会 文化財担当）



(以下は 長谷川 清 之さんの講演資料です)

1. はじめに

○お盆とは？

うらぼんえ
※盂蘭盆会・・・元は、毎年旧暦7月15日に死者の霊を祀る供養会をさす。

- (1)お盆の時期の変遷：7月15日(新暦・旧暦)・7月15日(月遅れ)
- (2)8月の年中行事(盆行事を含む)

(表1)

日	行事	地区別の行事	盆踊り
8月1日	※釜蓋一日		

8月7日	七夕・(盆行事のはじめ)・墓掃除・井戸さらえ・田ほめ・髪洗い・仏具磨き	柱松(上境)と虫追い(鞍)・七夕盆(田)	○
8月8日			○
8月10日		盆花取り(田)	○
8月13日	盆(迎え) (初盆盆踊り)		○
8月14日	盆 (初盆盆踊り)	永谷の盆綱(鞍)	○
8月15日	盆(送り) (祖霊盆踊り)	相田・下碓井盆綱(嘉)・畑の柱松(鞍)	○
8月16日	地獄の釜が開く・閻魔様・やぶいり	円満寺の流れ灌頂(嘉)・閻魔様・女の盆(嘉)	○
8月17日	観音様(千灯明)		○
8月20日	二十日盆	導善大師盆踊り・島台大師盆踊り(田)	○
8月21日	大師祭り(千灯明)(鞍)		
8月24日	地藏盆・セントウミヨウ(セントロ・セントメ)・地藏祭り	千灯明(嘉)・十輪院の流れ灌頂(田)	○

2. 盆踊りとその歴史

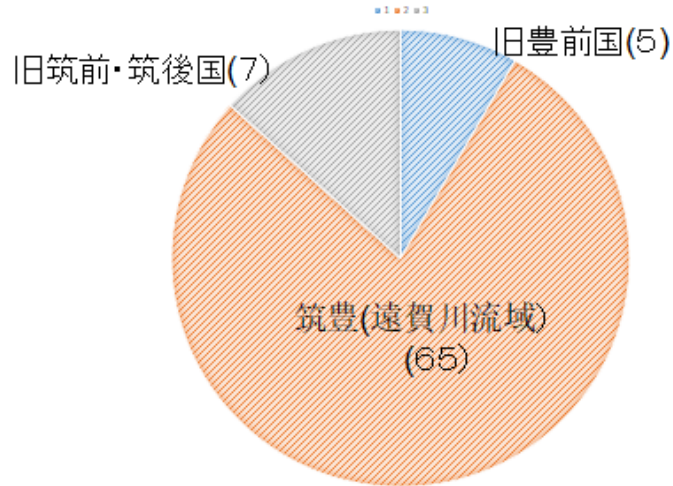
- 盆踊りとは(平安時代の「念仏踊」から起こった芸能である)
- ・平安中期の僧空也上人が念仏信仰を庶民に普及させようとして創作したものである。
- ・鎌倉時代になって時宗の祖、一遍上人がこの念仏踊りをより芸能的に仕上げて、同派の遊行聖と共に全国に広めていった。
- ・盆踊歌も室町時代に入ると従来の念仏の唱名から、小唄に代わっていく。
- ・さらに江戸時代に入ると口説歌(歌物語)も取り入れられるようになった。なお、念仏踊りはすべてが盆踊りに変化したものではなく、現在でも全国各地に伝存している。

3. 筑豊(遠賀川流域)の盆踊り

(1)概要

- 1) 分布 県下でも最も分布が集中する地域。

福岡県の盆踊りの地域別分布数
(平成14・15年:福岡県60か所調査)



2) 時 期(表1参照)

○時期からわかること(供養の対象)

- ①13日から15日におこなわれる盆踊り→家の御先祖供養
- ②戦没者供養
- ③土地伝承供養→戦国時代に落城した武将・姫、その他
- ④神仏の縁日に合せた盆踊り→観音様・地藏盆 →供養・お礼・願
- ⑤イベント(戦没者・物故者)

3) 場 所 ①初盆の家・寺社・墓地・広場・集会所
②信仰する神仏のお堂(縁日)

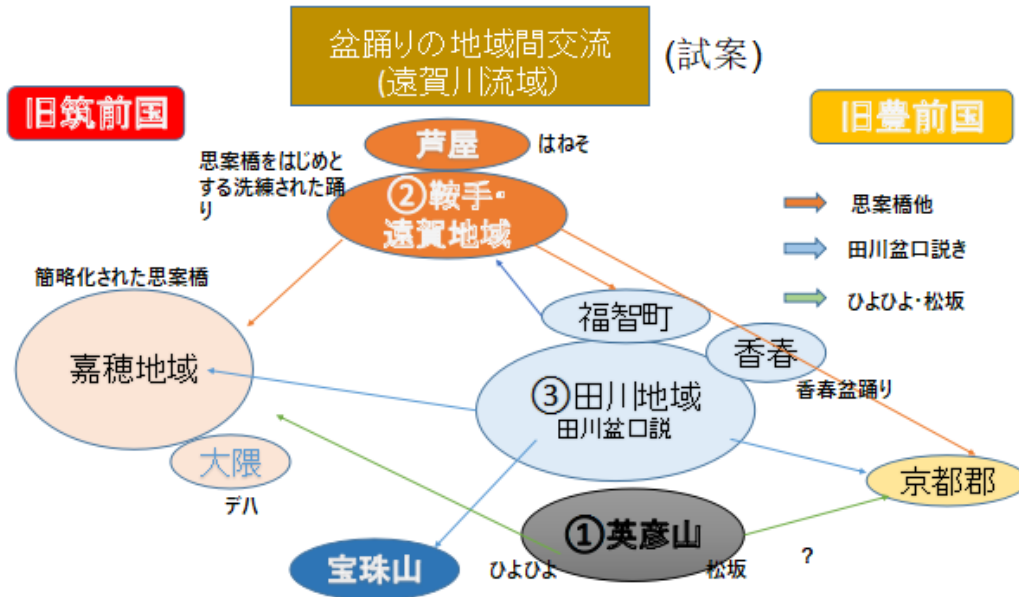
4) 衣 装 浴衣・白足袋・編笠・頬かむり・下駄
※変装・男性が女装

5) 道 具 持ち物：うちわ・竹筒・笹
会 場：やぐら・屋台・天蓋・傘鉾

6) 楽 器 太鼓・三味線・笛・鉦等

7) 曲の種類 ①口説き(豊前系)・海岸・豊前農村系
②小唄(流行り歌)系

(3) 主要な筑豊(遠賀川流域)の盆踊りと特徴



①彦山周辺の盆踊り

ア) 「ひよひよ」(五・七・七・四)

・落合、中元寺、安宅地区に残る。中世歌謡に起原があると考えられ、全国的にも注目されている。20番が残っており、他のものが断片的であるのに比べて貴重である。

イ) 「彦山踊り」・「松阪」(松阪は、彦山踊りと同種であるともいわれる)

- ・飛騨高山のさっさ踊りの影響
- ・座主助有法親王以来京都との関係が密であるので都の手振りが入ったので流暢で優雅な踊りになった。

②役者集団が育んだ盆踊り

① 遠賀・鞍手地域の思案橋と洗練された踊り

この地域の盆踊りは、①小唄(流行り歌)系、②口説系に大別される。中でも①小唄系の遠賀・鞍手地域(遠賀川中下流域系)のものは他のものに比べて、所作が極めて洗練されており、また踊り歌も長唄風である。これは、江戸時代に芦屋町や直方市植木に住み着いた遊行聖が芸能集団化し、やがて歌舞伎役者として活躍することになるが、この役者たちによって振り付けされたものである。

1)【県指定】「はねそ」(芦屋町)：(隊列踊り)→芦屋役者が天明年間(1781~1788)振り付け

2)【県指定】「三申踊り」(直方市植木)：→植木役者(七手・次郎左(思案橋)・男踊り・女踊り、ほめことば・返しことば)

3)【県指定】「日若踊り」(直方市)：→本手・思案橋からなる。

※直方の盆踊りについて

・日若踊りは、現在本手と思案橋からなる。由来は、1678(延宝6)年、直方藩士大塚次郎佐衛門ほか数名が君命により江戸へ上った。その帰途、大阪で思案橋を習い帰藩して、多賀神社(日少宮)に伝承されていた日若踊・舞に加えたものが思案橋踊(次郎佐踊)となった。さらに1864(元治元)年、直方へ宮芝居にきていた大阪の役者浅尾鬼丸の指導による地唄「加賀の千代」の替歌から新作の振付けがなされ、古町組の本手踊として残った。この思案橋踊と本手踊の二様の踊が直方日若踊と呼ばれるようになり、今日に至っている。(思案橋は、遠賀川の川船頭が流域に伝えたとも言われている)

・三申踊は、思案橋、次郎左、本手の三種類がある。思案橋は男踊りと女踊りに分かれている。男踊りは七手(お天気、姫女、三番叟、後ろ、水棹、投網、鍛冶屋)に分かれ、はな引きと呼ばれる音頭取りが、拍子木を叩きリードする。女踊りは2種類に分かれている。次郎左は女踊りで、歌詞も曲も思案橋と同じで、男踊りの「七手」の際に踊る。振りも大きくやや荒っぽい。本手は歌が長く優美な踊りである。

豊前田川口説き

口説きとは、西日本一帯に広く分布するもので、田川地方の盆踊唄の主流をなし、七・七・七・七の四句を一連として、これを繰り返すものである。

※起源について(小野芳香氏によると、)

・「この盆踊りは、小倉藩士の盆踊りで、門司の松ヶ枝方面が発祥の地で、幕末長州戦において小倉藩が戦に敗れ田川地方に敗走した武士が香春や採銅所に居住し踊りを伝えた。」とある。また、「鶴の真似」という本には、享保年間から門司で踊られたとの記述がある。口説きは、朝方まで長時間に渡る踊りで用いられたため、たくさんの世相を反映した題材(大衆芸能等他)が取り入れられた。

○口説きの種類と題材

①心中もの(全国モノと地方モノ)

ア)「鈴木主水白糸くどき」・・・鈴木主水とは、享和年間(1801~1803)に2人の子を置き去りにして、江戸新宿本屋の遊女白糸と心中をしたと伝えられる武士で、事実是不明であるが、天保・嘉永年間(1830~1854)にかけて唄が大流行して広がった。

- イ)能行口説(小倉南区)・・・天保6(1835)年：お千代・儀平
- ウ)脇田口説き(宮若市)・・・寛政年間(1789～1809) 脇田に藤屋という大店があり、吉次という跡取りがいた・・・・・・・・。
- エ)後藤寺心中(田川市)
- オ)地ノ島心中(宗像市)

②人柱もの

- ア)お浦口説(田川市)・お糸口説(小倉南区)

③その他の口説き

- ア)大衆芸能系(大正末期頃から流行)

「のぞき節」(のぞきからくりの金色夜叉・不如帰)

「バナちゃん節口説」

- イ)浄瑠璃・歌舞伎系(八百屋お七物語・石堂丸・源平合戦・辰也口説き)

- ウ)仏教説話系(目連尊者・地獄極楽)

- エ)手まり唄・童謡・軍歌等

- オ)その他(時代に応じ新しく作られた口説き・ご当地口説き)

「二又爆発口説(上落合)」・「三菱方城炭坑非常の唄」・「大任十輪院鎮火地藏尊口説(サエモン口説き・ハイヨーコラショ)」・「清瀬姫恋物語・香春岳落城秘聞」・「炭都田川今昔口説」

(4) その他の盆踊唄

○各所の代表的な盆踊り唄に混り、小唄(流行唄)系もたくさん残る。

田川地域

書生さん・高い山から(ぎちよんちよんぎちよんちよん)・盆なこら・田ノ草取り・なぎなた踊り・自転車節・御開山・スイリヨウスイリヨウ・デッチョ

遠賀・鞍手地域

鞍手町 春雨(上木月) 思案橋・平作(古月)・豊前口説き・筑前口説き・イリハ・デハ(舟川)・瑞穂音頭・平和音頭(長谷)・(八尋)・その他(沖の大戦他)

中間市 里踊り(花踊り)・奴踊り

直方市 雁に燕・花におう(永満寺)・思案橋〔ほめ言葉・返し言葉〕(下境)・瑞穂踊り「思案橋・香におう・春は桜(上境)・里踊り(花踊り)・奴踊り(中泉)

宮若市 田蔵踊り(旧宮田)・脇田口説き

小竹町 堤扶利踊(小竹)・豊年振袖踊り(勝野二区・南良浦)・思案橋(御徳琵琶・一区)・御徳吉野供養踊り(御徳一区)・雨霰・吉岡(南良津)・黒髪流盆踊り(本手・思案橋) 新山崎・兵丹小唄・赤地小唄

嘉穂地域 浦島：旧穎田町では、直方から伝わった盆踊りが町内で踊られた。(浦島) ※嘉穂郡では、簡略化された思案橋が戦前まで広く踊られていた。

4. おわりに

※参考資料

(口どき集：目次) 昭和 52(1977)年 島本勝巳編(金田町南木)

①数え歌口説き・②炭都田川今昔口説・③賽の河原地蔵和讃・④鈴木主水白糸くどき・⑤お染久松くどき・⑥兄弟心中口説・⑦大工ごろしくどき・⑧清瀬姫恋物語・⑨八百屋お七吉三くどき・⑩阿波の鳴門巡礼くどき・⑪お吉清三くどき・⑫石童丸苧萱くどき・⑬お浦ヶ池伝説・⑭数え歌口説き・⑮真ん中唄・⑯四十七士の物語・⑰八百屋お七物語・⑱バナナ売り・⑲いろは口説き・⑳自転車口説・㉑端唄・㉒聖人箱根分かれ

○合の手（歌や踊りの調子に合わせてはさむ掛け声や手拍子）（下田川周辺）

1. ヨイトサッサノドッコイサノサ
2. アイヨナコラシヨ
3. ストトン
4. ホンヨホイヨイヤサノサ
5. ヨーホイヨーホイヨーイヤナー
6. ヤンソレサ
7. チリリン
8. サースイリヨ
9. ヤートコサイサイ
10. エッチョコエッサ
11. ロープ
12. サードシタナードシタナー
13. ヨイトナーノヨイトナノセ
14. ソラデンシャガハッシャシタ(そら電車が発車した)

1. 盆口説きの前歌

- ・さあさこれから、私が音頭 サノヨーイ ヨイヤサノサ（以下繰り返し）
わしが音頭であうかは知らぬ、あわぬ所は踊り子にたのむ。

2. 受取り文句

- ・先のお方は お煙草休み 煙草休みの助太刀しましよ、
- ・もろたもろたよ私かもろた、先のお人はおじょうずなお方・・・、

3. 終わり文句

- ・私の口説きもほど長ければ、ここらあたりで止めおきまする。

ご参加いただいたみなさまの感想です。(アンケートより)

- 盆踊りについて詳しいお話は知らなかったことが多く大変参考になりました。もっと聞きたかったです。24日地蔵大祭では盆踊りを行っています。以前は口説きがありました。また信者さんが十輪院に口説きを作ってくれたことがありました。
- 大変楽しかった。盆踊り復活させたいですね。
- 興味ある話でした。懐かしい思い出でした。残念だったのはマイクの声が大きくて音響がひどく聞きづらかった。
- 子どものころから青年団まで毎年踊り続けたお盆の行事。今では自分の地区は昔の踊りはなくなり新しい踊りに変わる。これも時代の流れだが淋しい。8月の年中行事は知らなかったことが多い。年のせいでしょうか、盆踊りの話は感動しました。
- 司会の方がおっしゃったように本当に合い手を入れて歌を聞きたかったです。CD、DVDなどあったら…。
- 半世紀前は戸別(初盆宅)で盆踊りをやっていたが、時代の流れで徐々に省略されて最近ではほとんどの地域ではなくなり、町役場前や総合運動公園にて盛大に行うようになりました。三味線、太鼓、口説きの三セットで実施していますが、やはり伝統行事は継続すべきですね。里帰り者他多くの人々で賑わっています。ただ、三セットの後継者育成に苦慮しているのが現状です。炭坑節もよいですが、盆踊りも宴会にてお開きにする場合もあり受けています。
- 昔、盆口説きをしていたが、今日の話聞いてまた興味がわきました。
- とても興味深く、また是非、盆口説きや盆踊りについてお話していただきたいと思います。ありがとうございました。
- あまり興味がなかったけど、楽しく聞きました。
- 懐かしい昔の盆の行事を思い出しました。また、地域によって様々違うこと知りました。
- 講師の方は一生懸命に、熱心に説明していただいたが、申し訳ないが聞く方はあまり内容が深すぎて、わかりにくかった。
- 盆踊りというテーマでここまで話が深まるとは…！面白かったです。
- 一口に「盆踊り」といっても、時代、地域によって違いがあり、非常に面白い風習であるということがわかりました。地域の文化を色濃く反映するものだと思います。実際に各地の踊りを見に行きたいと思います。
- 田川の盆踊り！いやー！文化ですね！大衆の文化が生き続けている。嬉しいです。島本勝己さんの盆口説きの本を持っていますが、所在不明で。見つかったら長谷川さんに贈呈します。今日はありがとうございました。

- 盆踊りの動画を見て、特徴の違いを知りたかったです。
- これまで知っていた盆踊り行事と違い、とても新鮮で面白かったです。地域の文化の多様性がわかり、大変勉強になりました。

• 大変興味深かった（19人）概ね良かった（6人）あまりよくなかった（0人）

<参加者概要>

① 参加者数（40名）

② 本講座参加の背景（アンケートより）

大学HP（0人）、知人の紹介（7）、行政の広報（5）チラシポスター（11）

新聞（1）郷土史研究会（2）大学からの通知（2）

***素晴らしいお話をいただいたお二人の先生方、また、ご参加いただいた、たくさんの皆さま、本当に有難うございました。**